

# M&Aキャピタルパートナーズ株式会社 2014年9月期 第1四半期決算説明資料

クライアントへの最大貢献と  
全従業員の幸せを求め

世界最高峰の投資銀行を目指す



2014年1月29日

---

<i>I</i>	会社概要と当社の強み	...	2
----------	------------	-----	---


---

<i>II</i>	実績と見通し	...	8
-----------	--------	-----	---

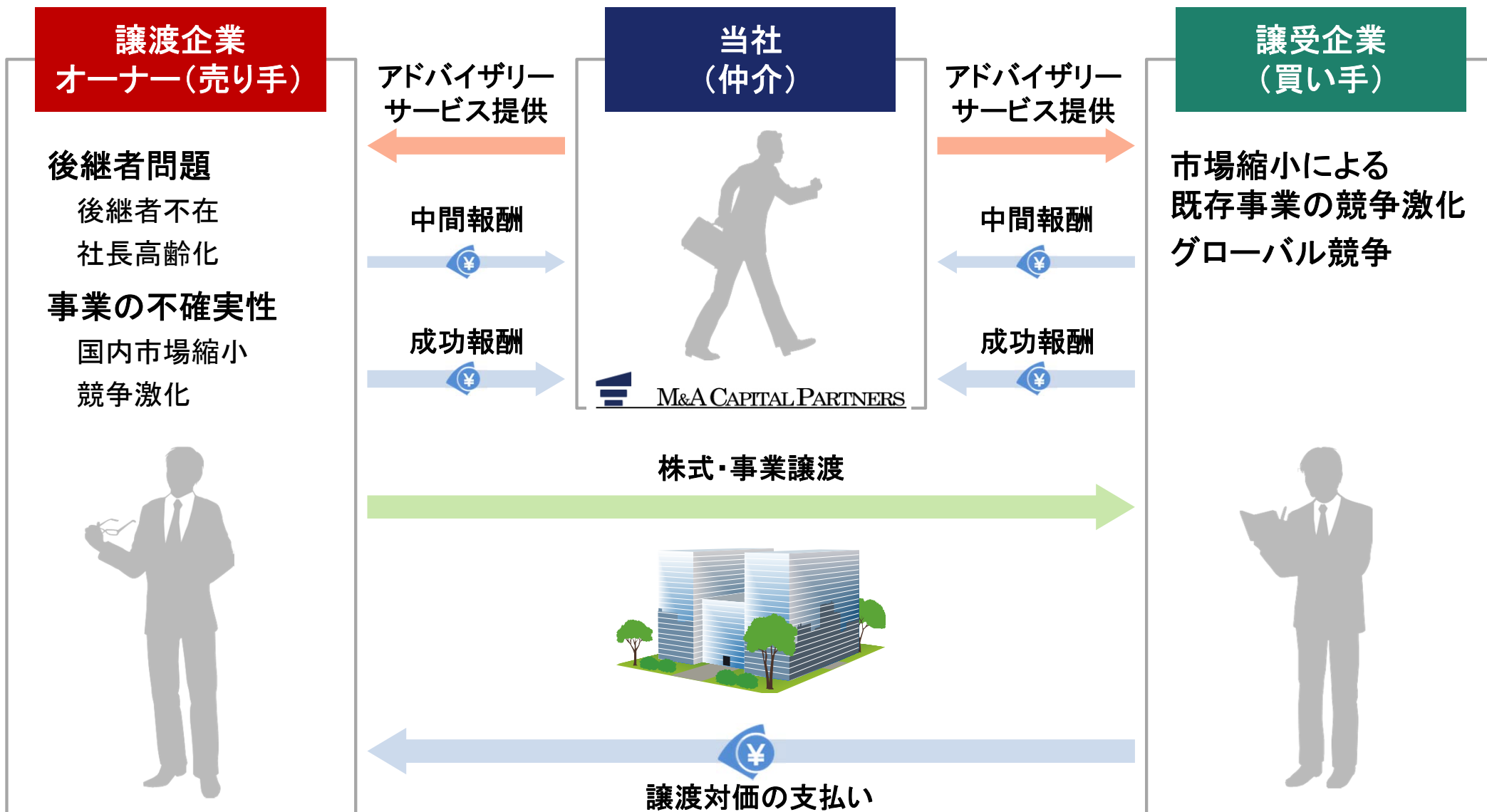
---

# I 会社概要と当社の強み

---

商号	M&Aキャピタルパートナーズ株式会社
上場市場	東京証券取引所マザーズ（証券コード:6080） 
所在地	東京都千代田区麹町3-5-2 ビュレックス麹町10階
事業内容	M&Aアドバイザー／仲介
代表者	代表取締役社長 中村 悟
設立	2005年10月
資本金	287,300千円(2013年12月31日現在)
従業員数	22名(2013年12月31日現在)
経営理念	クライアントへの最大貢献と全従業員の幸せを求め世界最高峰の投資銀行を目指す

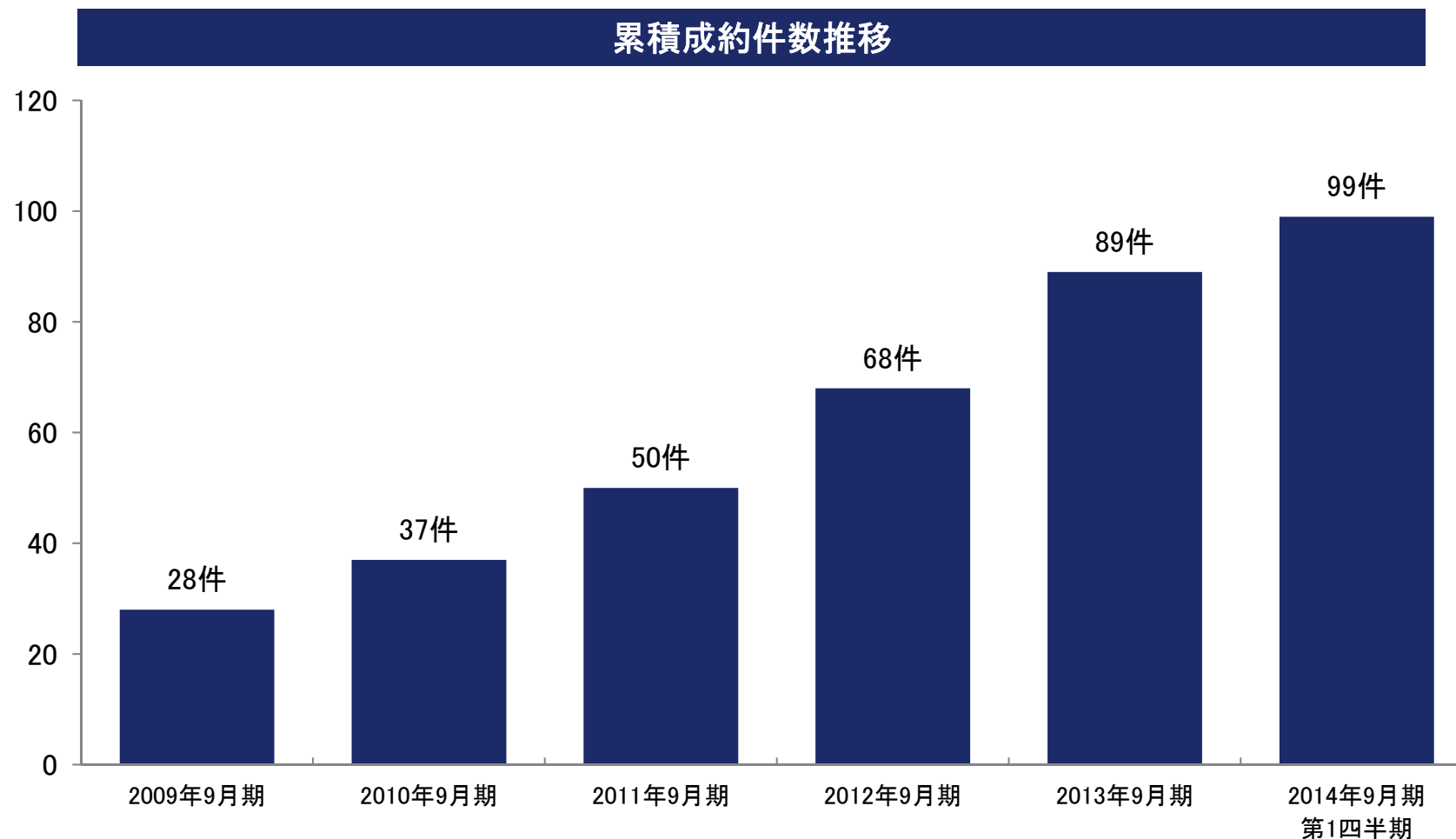
売り手と買い手のニーズをマッチングするM&A仲介が主なサービス





## 安定した成約実績

株式譲渡または事業譲渡による、中堅・中小企業の「事業承継M&Aの提案・助言」に注力し、安定した成約実績を積み重ねてきた。





## 顧客納得性が高い手数料体系

### (1) 成功報酬型の手数料体系 <着手金・月額報酬なし>

基本合意契約を締結するまでは顧客に**費用負担が発生しない**手数料体系

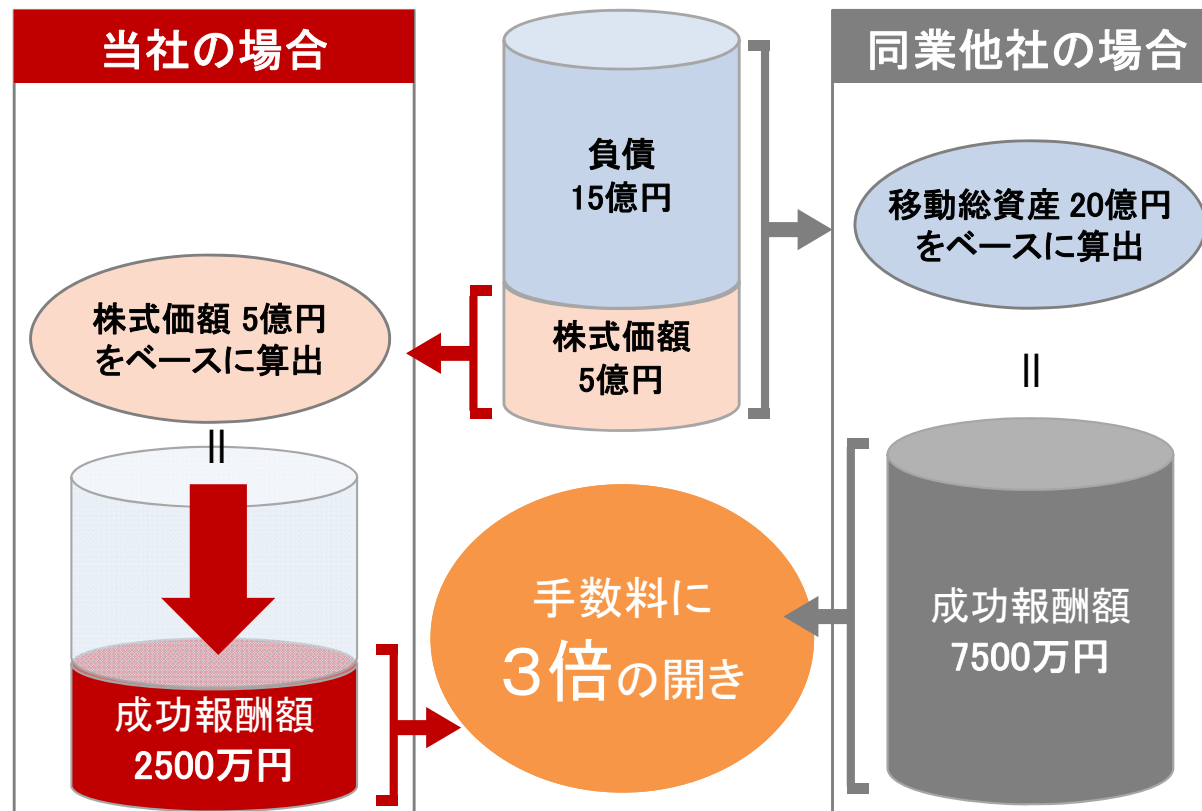
検討段階で必要となる費用		
	当社	同業他社
企業価値算定	無料	有料
着手金	無料	有料
月額報酬	無料	有料/無料

顧客納得性が高い手数料体系

(2) 株式価額ベースの成功報酬(手数料)を採用

- ・M&A仲介会社の成功報酬額は、一般的にレーマン方式(取引金額に一定の料率を乗じて算出)を採用
- ・成功報酬(手数料)の算出は**株式価額が基準**。移動総資産ベースと比べて納得性が高い

【例】 株式価額 5億円、負債15億円の企業の場合



手数料率(レーマン方式)について

大手金融機関はじめ採用されている一般的なレーマン方式の料率です。

取引金額	手数料率
5億円以下	5%
5億円超～10億円以下	4%
10億円超～50億円以下	3%
50億円超～100億円以下	2%
100億円超	1%

例) 取引金額が20億円の場合の手数料の計算方法

$$\begin{aligned}
 &5\text{億円} \times 5\% = 2500\text{万円} \\
 &+ (10\text{億円} - 5\text{億円}) \times 4\% = 2000\text{万円} \\
 &+ (20\text{億円} - 10\text{億円}) \times 3\% = 3000\text{万円} \\
 &\quad\quad\quad 7500\text{万円}
 \end{aligned}$$



## *II* 実績と見通し

---

## 2014年9月期 第1四半期 総括

売上高 **412百万円** (前年同期比 +192.0%)

経常利益 **188百万円** (前年同期比 +208.9%)

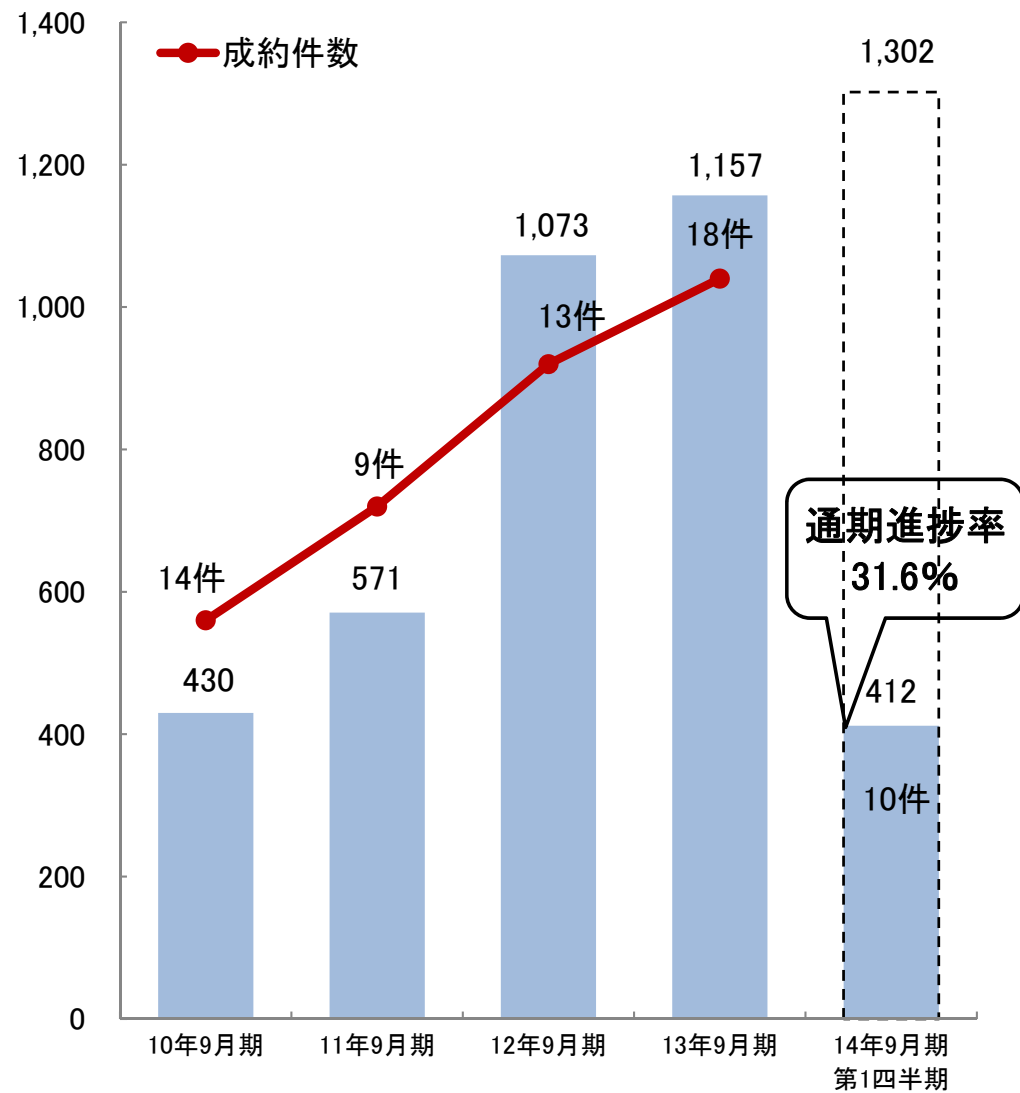
成約件数 **10件** (前年同期比 +150.0%)

コンサルタント数 **19名** (前年同期比 +6名)

・業績は順調に進捗			単位:百万円
	第1四半期	通期予想	通期進捗率
売上高	412	1,302	31.6%
経常利益	188	582	32.4%

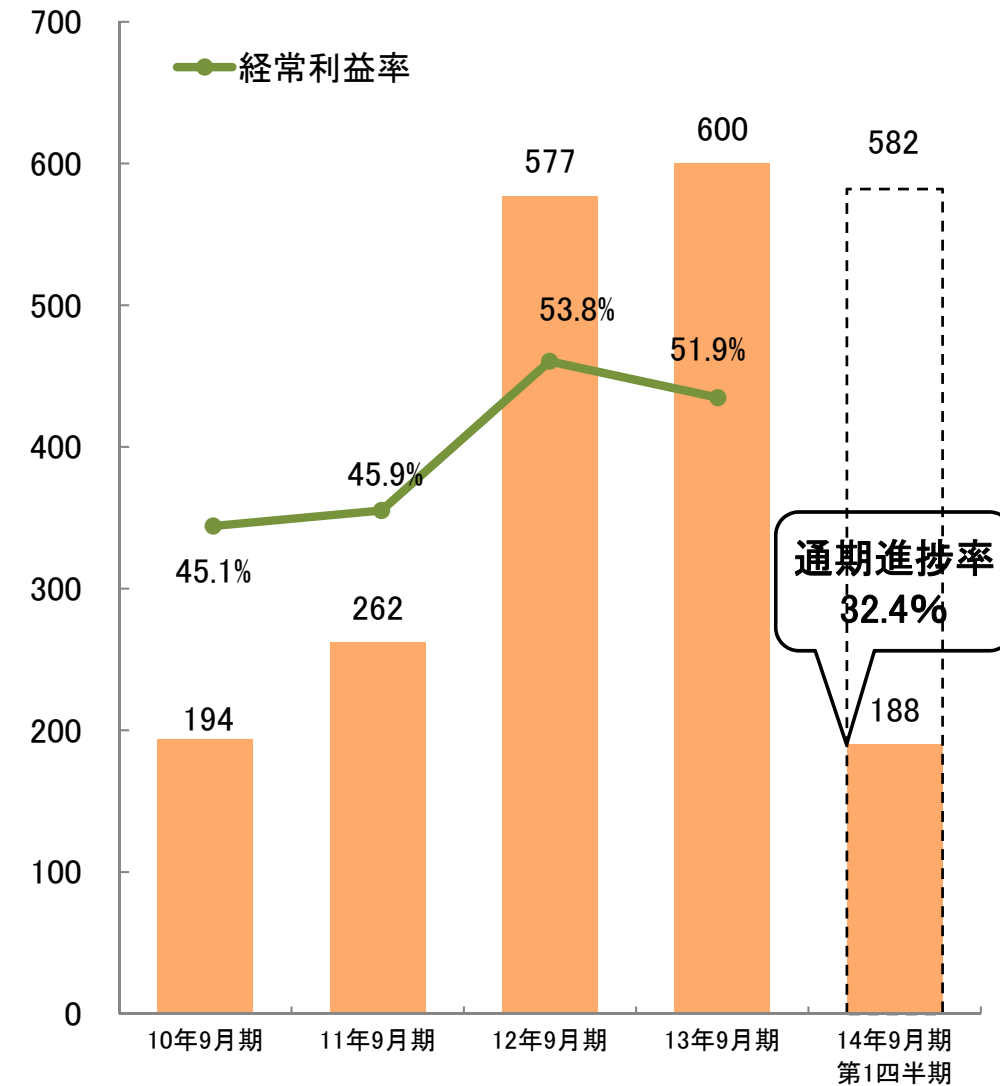
## 売上高

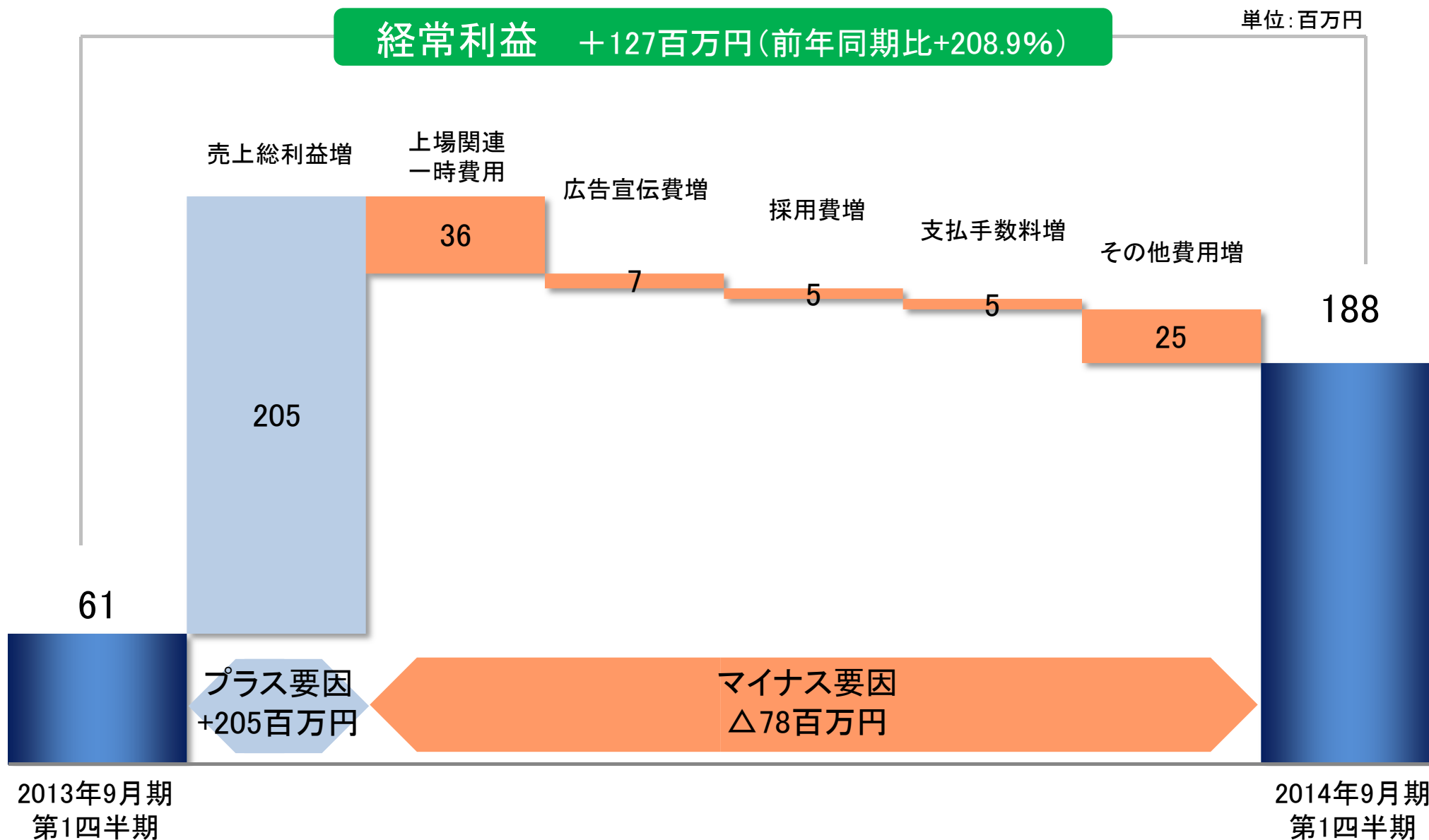
単位:百万円



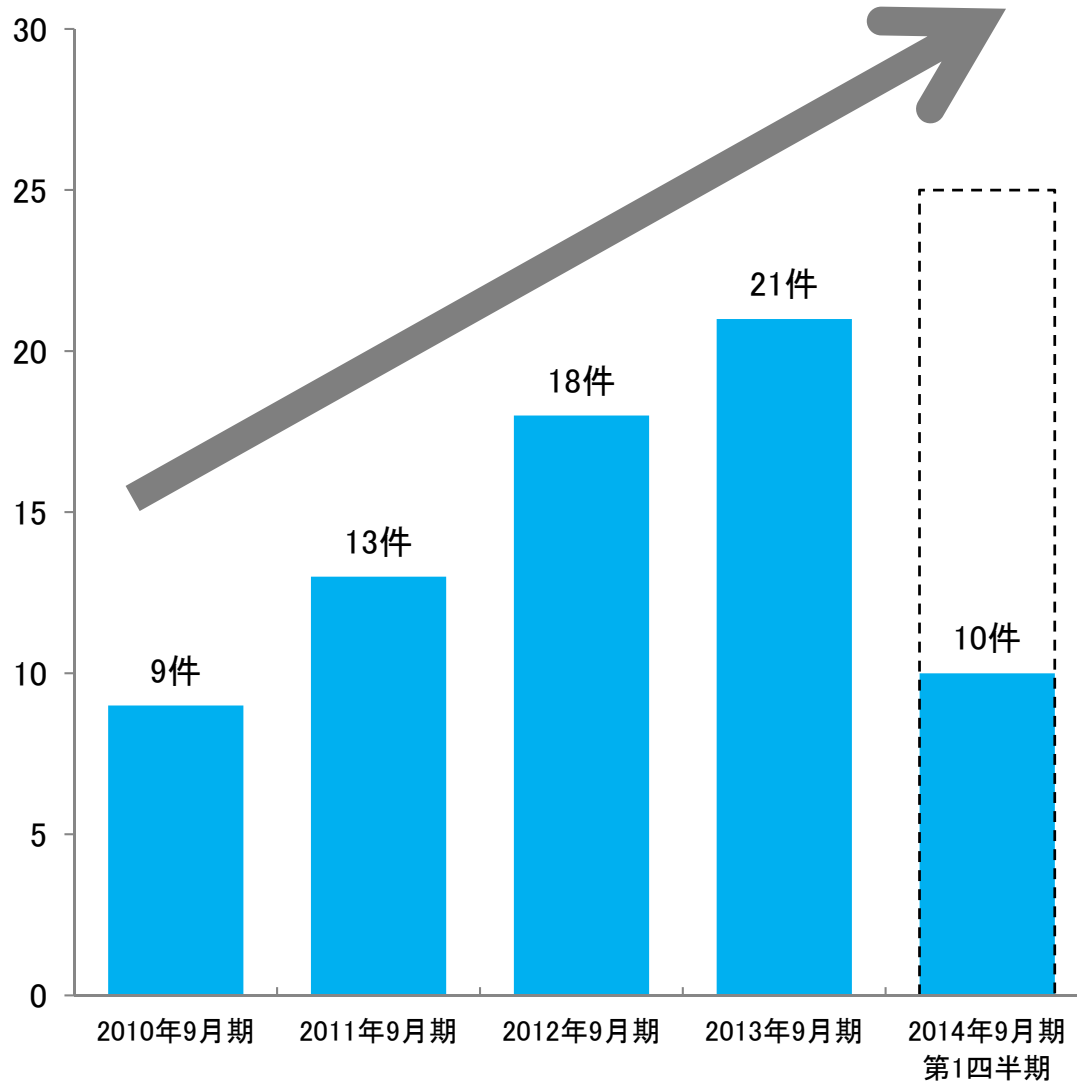
## 経常利益

単位:百万円





## 成約件数推移



- ・前年同期比 +150.0%
- ・過去最高の四半期成約件数を達成

(要因)

コンサルタント数の順調な増加

(単位:百万円、下段は構成比)

	2013年9月期 第1四半期	2014年9月期 第1四半期		業績概要	2014年9月期 通期予想
			前年同期比		
売上高	141 (100.0%)	412 (100.0%)	+ 192.0%	■ 成約件数増加	1,302 (100.0%)
売上総利益	97 (69.4%)	303 (73.6%)	+ 209.6%	■ 増収効果を楽しむ	
販売管理費	36 (25.9%)	98 (23.9%)	+ 168.9%		
営業利益	61 (43.5%)	204 (49.7%)	+ 233.8%	■ 増収効果を楽しむ	582 (44.8%)
経常利益	61 (43.3%)	188 (45.8%)	+ 208.9%		582 (44.8%)
当期純利益	35 (25.5%)	103 (25.1%)	+ 187.8%		347 (26.7%)
成約案件数	4	10	+150.0%	■ 過去最高の四半期成約件数	
従業員数	17	22	+29.4%	■ コンサルタント数の順調な増加	

(単位:百万円、下段は構成比)

	2013年9月期末		2014年9月期 第1四半期末	
			増減額	主な増減要因
流動資産	1,638 (99.4%)	1,835 (96.5%)	+196	■ 現預金 +228
固定資産	9 (0.6%)	66 (3.5%)	+57	
資産合計	1,648 (100.0%)	1,901 (100.0%)	+253	
流動負債	533 (32.4%)	236 (12.5%)	▲296	■ 未払法人税等 ▲158 ■ 借入金の一括返済 ▲14
固定負債	29 (1.8%)	— (-%)	▲29	■ 借入金の一括返済 ▲29
負債合計	562 (34.2%)	236 (12.5%)	▲326	
純資産合計	1,085 (65.8%)	1,665 (87.5%)	+579	■ 株式発行による資本増加 +476
負債・純資産合計	1,648 (100.0%)	1,901 (100.0%)	+253	

## 2014年9月期 第1四半期 セミナー開催実績

2013年11月21日

M&amp;Aセミナー

日経トップリーダー 特別セミナー

オーナー経営者を中心に、約500名のお申込

## 【テーマ】

「企業経営における継承するものと、しないもの」

## 【基調講演】

パソナグループ代表 南部靖之氏



2013年12月18日

業界別セミナー

介護業界経営者セミナー

## 【テーマ】

「M&Aから考える介護事業の在り方」



クライアントへの最大貢献と  
全従業員幸せを求め  
世界最高峰の投資銀行を目指す



<本資料の取り扱いについて>

平成26年9月期 第1四半期決算短信においては、当期より第1四半期の業績開示を行っているため、前年同期に関わる数値(平成25年9月期第1四半期の業績、平成25・26年9月期第1四半期の対前年同四半期増減率)を記載していません。

そのため、本資料においては、参考情報として、前年同期に関わる数値(前年同期の業績、前年同期比等)を記載しております。

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。